

科目名	臨床心理学 I	科目ナンバリング	MT4T0T02		
担当者	竹下 健太				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※			必修	ABCEF
備考	※音楽療法士1級資格取得希望者のみ必修				

授業のテーマ及び到達目標	さまざまなこころの問題についてアセスメントする方法について臨床心理学的見地からとらえ、基本的知識と技術を深めることによってセラピストとしての素養を高める等を目標とする			
授業の概要	基本的な心理査定理論と方法を理解し、臨床心理学的見地から、心の問題を理解する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	臨床心理学の様々な考えや立場を概観しそれらを柔軟に統合する視点を学修	教科書の22ページまで読んで理解しておく	臨床心理学における多様性の意義について考察
	2	臨床心理学における様々な立場がどのようにして発展してきたかを学修	臨床心理学の様々な考えの内どれが自分に合うかを考察	臨床心理学における多様な立場の統合は可能かを考察
	3	臨床心理学の物語性について学修	好きな小説に共通する物語構造をまとめておく	今までと異なる構造を用いて自分の人生を物語る
	4	社会構成主義について学修	実存主義と社会構成主義は両立可能かを考察しておく	自己のどこまでが社会的に構成されたものかを考察
	5	エンパワーメントについて学修	言語使用規則における権利剥奪の構造について考察	言語使用規則による権力再生産にいかに対抗するか考察
	6	心理アセスメントの概要を学修	診断という言葉のパターンリズムについて考察	アセスメントという言葉を使う重要性について考察
	7	データの収集方法について学修	教科書の46ページから60ページまで読んでおく	面接法と観察法の基本技法を用いて人間観察
	8	データの分析方法について学修(統計法含む)	教科書の62ページから66ページまで読んでおく	友達の行動を数値データ化し統計処理してみる

	9	異常と正常の多元性とそれらを理解する視点を学修	人を異常と正常に分けることの功罪について考察	自分の異常な点を、それがどの基準から言えるか考察
	10	代表的な心の病気について学修	教科書の78ページから94ページまで読んでおく	代表的な心の病気について説明ができるように暗記
	11	乳幼児期から思春期までの心理的問題について学修	1年次の発達心理学の内容を復習しておく	自分の成長過程をアセスメントする
	12	青年期から老年期までの心理的問題について学修	青年期から老年期までの人を観察法で記録	事前に記録したデータをアセスメントする
	13	代表的な発達障害について学修	教科書120ページから126ページまでを読んでおく	代表的な発達障害について説明ができるように暗記
	14	発達過程で起こる問題について学修	教科書128ページから138ページまで読んでおく	発達過程で起こる問題への対応について考察
	15	教員とディスカッションし臨床心理学的観点から独自の理論を構成する	臨床心理学の本を数冊読み自分の意見を形成しておく	アセスメント技法を用いて自分の理論を検証

使用教科書	よく分かる臨床心理学(改定新版)(ミネルヴァ書房)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	小レポート15回	70%	自分自身の問題として考察できたか
期末レポート	20%	主体的に調査及び考察ができたか	
平常態度・発言	10%	授業に参加し適切な発言ができていたか	

科目名	臨床心理学Ⅱ	科目ナンバリング	MT4T0T03		
担当者	竹下 健太				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※			必修	ABCEF
備考	※音楽療法士1級資格取得希望者のみ必修				

授業のテーマ及び到達目標	さまざまなこころの問題についてアセスメントする方法について臨床心理学的見地からとらえ、基本的知識と技術を深めることによってセラピストとしての素養を高める等を目標とする			
授業の概要	基本的な心理査定理論と方法を理解し、臨床心理学的見地から、心の問題にアプローチする			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	精神分析からクライアント中心療法への流れを学修	フロイト、ユング、ロジャーズの理論を調べる	各理論の相違点と共通点について考察
	2	行動療法から認知行動療法への流れを学修	ワトソン、スキナー、フェスティンガの理論を調べる	心を数値化することの功罪について考察
	3	家族療法からナラティブセラピーへ	個人療法の限界について考察しておく	家族を物語として捉える功罪について考察
	4	日本で作られた理論について学修	日本人の心理の特殊性について考察しておく	日本で作られた療法が世界に広まった理由について考察
	5	主に無意識の領域に働きかける諸技法について学修	教科書180ページ付近を読んで理解しておく	遊戯療法、箱庭療法、夢分析の共通点について考察
	6	主に身体感覚を活用する諸技法について学修	教科書185ページ付近を読んで理解しておく	フォーカシングと自律訓練法を自主練習
	7	行動主義及び認知主義に基づいた諸技法について学修	自分の行動及び認知をアセスメントしておく	自分の行動及び認知の癖を直してみる
	8	主に集団に働きかける諸技法について学修	集団心理について調査しておく	集団心理学の観点から自分の属する集団を観察

	9	集団への教育を主とする技法について学修	心理教育の事例について調べておく	実際に心理教育を行うと想定して授業案を作る
	10	学校領域のコミュニティへの介入	教科書210ページ付近を読んで理解しておく	学校コミュニティの特殊性を踏まえて介入法を考案
	11	地域社会コミュニティへの介入	教科書220ページ付近を読んで理解しておく	実際にコミュニティへの介入を各自見学か調査
	12	心理学研究における量的研究と質的研究について学修	日頃疑問に思っていることを検証可能な仮説の形にする	自分の仮説を量的・質的に検証する計画を立てる
	13	介入的研究の進め方について学修	実際にデータを集めてくる	自分の研究計画の改善点についてまとめる
	14	事例研究の方法を学修	会話の録音記録をしてくる	録音記録をトランスクリプトにし分析
	15	教員とディスカッションし臨床心理学的観点から独自の療法を構成	臨床心理学に関連する本を読み自分の意見を形成	研究技法を用いて自分の療法を検証する

使用教科書	よく分かる臨床心理学(改定新版)(ミネルヴァ書房)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	小レポート	70%	自分自身の問題として考察できたか
期末レポート	20%	主体的に調査及び考察ができたか	
平常態度・発言	10%	授業に参加し適切な発言ができていたか	

科目名	音楽療法総合演習	科目ナンバリング	MC4T0T08		
担当者	小林 真寿子・村橋 和子				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	3年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※			必修	ADF
備考	※音楽療法士資格取得希望者のみ必修				

授業のテーマ及び到達目標	音楽療法士が音楽を媒体として現場で治療に関わる意味を多角的・理論的に検討することを目的とする。治療目的に沿ったプログラムを作成し、弾き歌い技術の向上を目指す。また、社会人としてのマナー、接遇などについても学び、それらを身につける			
授業の概要	1, 2年次にわたり、学んできた音楽療法の基礎理論、各論、技法、すべてを総合して整理する。それを基にセッションプログラムを立て、実習前に実際に施設にて実践するワークを行う。実践できない学生は教室にて、音楽技術や理論、グループワークを学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 授業の進め方について理解し、音楽療法士の仕事や責任について考える	シラバスを熟読する	音楽療法士として必要な学びについて考える
	2	音楽療法的理論の統合を討議する	1, 2年次に学んだ理論を復習する	各グループごとに音楽活動を考える
	3	臨床現場における歌唱活動について(高齢者)	高齢者領域でよく使用する楽曲について調べる	課題曲の練習
	4	臨床現場における伴奏法について(高齢者)	課題曲の練習	留意点を中心に課題曲の練習
	5	臨床現場における歌唱活動について(児童)	児童領域でよく使用する楽曲について調べる	課題曲の練習
	6	臨床現場における伴奏法について(慈道)	課題曲の練習	留意点を中心に課題曲の練習
	7	臨床現場における歌唱活動について(精神科)	精神科領域でよく使用する楽曲について調べる	課題曲の練習
	8	臨床現場における伴奏法について(精神科)	課題曲の練習	留意点を中心に課題曲の練習

	9	臨床現場における伴奏について① 対象者のレベルに対応した伴奏法について学び、弾き歌いをする	課題曲をコード奏により弾き歌いする	留意点を中心に課題曲の練習
	10	臨床現場における伴奏について② 活動の目的に対応した伴奏法について学び、弾き歌いをする	課題曲をコード奏により弾き歌いする	留意点を中心に課題曲の練習
	11	臨床現場における伴奏について① 臨床場面で求められる伴奏法について学び、弾き歌いをする	課題曲をコード奏により弾き歌いする	弾き歌いを練習し、音楽提供の方法を考える
	12	音楽療法における治療の実際 高齢者領域のセッションプログラムを作成し、ロールプレイを行う	プログラム作成	プログラムの振り返りを行う
	13	音楽療法の実際 施設にて学生グループがセッションを行う	セッションの練習	セッションを振り返り、自分自身の反省をまとめる
	14	実際に行ったセッションのフィードバック グループごとにセッションの内容を発表し、互いに検討する	セッションの振り返りについて再考	他の発表を見てセッションの在り方を考える
	15	音楽療法総合演習における集団の意味 グループ活動における協働について学び、組織人としての言動を考える	各自、他者との関わりについてまとめる	協働について考え、自身の他者との関係性を検討する

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	セッションや授業への取り組みの姿勢
課題 / レポート	50%	レポート内容や弾き歌いの点数	

科目名	障害児保育	科目ナンバリング	KC3E3E32		
担当者	荒木 晴美				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	3年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択			必修	ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	障がいに対する理念や障がいの種類や特性を理解している。また、社会の変化や子ども達の多様性に保育者としてどう対応していけばよいかも学ぶ保育現場でできる配慮や環境の工夫ができることを目指す。			
授業の概要	授業では障がいの捉え方や障がいに対する基本的知識を学ぶ。発達上の課題に対して特別な保育ニーズと支援を明らかにする。また障がい児保育が一般の保育にも生かせることを学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	障がいの基本的な捉え方を具体的な本を読み聞かせすることで学ぶ	障がいについてどのように思うか考えてくる	本を読んでからの感想をまとめる
	2	WHOの国際生活機能分類にもとづいた障がいの理解	ノーマライゼーションについて調べておく	保育者としてきちんと障がいを理解する
	3	発達とは	0～6歳の発達過程を調べておく	言葉の発達を促すかわり方をまとめる
	4	脳の発達と障がい	脳神経のネットワークについて調べておく	脳の働きと障がいについて整理しておく
	5	障がい児の理解と保育における発達の援助	感覚統合について調べておく	障がいへの偏見をなくすには？
	6	視覚・聴覚障がい・言語障がい児の理解と援助 肢体不自由児の理解と援助	其々の原因疾患名を調べておく	支援のポイントを確認しておく
	7	知的障がいの定義と分類、原因、特徴などを学び支援の方法を考える	発達検査や知能検査を調べておく	支援のポイントを確認しておく
	8	発達障がい児の理解と援助	発達障害について調べておく	思春期になったの困り感を調べる

	9	記録と評価の方法を学ぶ	個別指導計画について調べておく	実際に計画書を作成してみる
	10	どのような環境でどのような遊びを働きかけるかを学ぶ	保育所の一日の流れを調べておく	具体的にどのような遊具が理想か考えてみる
	11	ほかの子どもに関心を持ち始めたときどうすれば良いかを学ぶ	大人とのかかわりはどのようなものか調べておく	集団の中での課題を考えてみる
	12	保護者対応の留意点について学ぶ	障がい受容について調べておく	子どもの気になる行動を見つけたらどうするか考える
	13	どのような連携があるか学ぶ	保育所児童保育要録を調べておく	小学校入学前にどのような連携があるか考える
	14	保健、医療、福祉、教育における現状と課題について学ぶ	特別支援教育について調べておく	課題の中で一番気になることは何かまとめておく
	15	「障がい児保育」の中で何を学んだか振り返る	障がいに対するイメージが変わったことを考えておく	保育者になったらどのように取り組んでいくか考える

使用教科書	障がい児保育(中山書店)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	期末試験	80%	学修内容理解
課題／レポート	10%	記述内容	
平常点	10%	態度・行動観察・毎時間の振り返り	

科目名	音楽療法実習指導	科目ナンバリング	MC4T0T11
担当者	小林 真寿子・村橋 和子		
担当形態	複数	単位数	1単位
対象学科	両学科共通	開設学年	3年次
開講時期	前期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
	※		
		音楽療法	ディプロマポリシー
		必修	ACF
備考	※音楽療法士資格取得希望者のみ必修		

授業のテーマ及び到達目標	様々な体験を通して、音楽を媒体として治療することがどのようなことなのか、治療者としての意識を持つことを目標とする。また社会人として適切なふるまいができることを目指す			
授業の概要	音楽療法総合演習に引き続き、具体的に実習の心構えを学ぶ。現場で働く他職種の方の技術や仕事の内容を把握し、音楽療法士が組織の中で、どのように働くのか学生自身で考え、行動できるようトレーニングする。実践できない学生は教室でワークのトレーニングを行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 実習について具体的に学ぶ	シラバスを熟読する 実習プロフィールを書く	実習プロフィールを仕上げる
	2	音楽療法的理論の統合を討議する	1, 2年次に学んだ理論を復習する	各グループごとに音楽活動を練習する
	3	臨床における歌唱活動について(高齢者)	高齢者領域でよく使用する楽曲について調べる	セッションを組み立て練習する
	4	音楽療法における治療の実際 高齢者領域のセッションプログラムを作成し、ロールプレイを行う	高齢者領域でよく使用する楽曲について調べる	プログラムの振り返りを行う
	5	臨床における歌唱活動について(児童)	児童領域でよく使用する楽曲について調べる	児童領域でよく使用する楽曲を弾き歌いする
	6	セッション実際の振り返り 体験発表を振り返り、プログラムや提供の方法を再考する	発表者は準備	プログラムの再考
	7	対人援助職としての意識を考える 施設やコ・メディカルについて学び、対人援助の心得を考える	パーソンセンタード・ケアについて復習する	対人援助についてまとめる
	8	臨床における歌唱活動について(精神科)	精神科領域でよく使用する楽曲について調べる	精神科領域でよく使用する楽曲の弾き歌い

	9	臨床における伴奏について① 対象者のレベルに対応した伴奏法について学び、弾き歌いをする	課題曲をコード奏により弾き歌いする	課題曲をコード奏により弾き歌いする
	10	グループワークの中でのコ・セラピストの役割 セッションにおける各役割について考え、ロールプレイを行う	コ・セラピストとしての自分の体験をまとめる	体験を基に、セッションの在り方について考える
	11	臨床における伴奏について② 活動の目的に対応した伴奏法について学び、弾き歌いをする	課題曲をコード奏により弾き歌いする	弾き歌いを練習し、音楽提供の方法を考える
	12	臨床における伴奏について② 治療構造に対応した伴奏法について学び、弾き歌いをする	課題曲をコード奏により弾き歌いする	弾き歌いを練習し、音楽提供の方法を考える
	13	音楽療法の実際 施設にて学生グループがセッションを行う	セッションの練習	セッションを振り返り、自分自身の反省をまとめる
	14	実際に行ったセッションのフィードバック グループごとにセッションの内容を発表し、互いに検討する	セッションの再考	他の発表を見てセッションの在り方考える
	15	音楽療法総合演習における集団の意味 グループ活動における協働について学び、組織人としての言動を考える	各自、他者との関わりについてまとめる	協働について考え、自身の他者との関係性を検討する

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	セッションや授業への取り組みの姿勢
課題 / レポート	50%	レポート内容や弾き歌いの点数	

科目名	音楽療法実習A(高齢者領域)	科目ナンバリング	MT4T0T12		
担当者	村橋 和子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※			必修	ACDE
備考	※音楽療法士1種資格取得希望者必修				

授業のテーマ及び到達目標	1、2年生で学んだ音楽療法に関する学び(対象者の疾病や障がいの理解、彼らを支える社会について、また対人援助の技法、音楽療法的技術など)の集大成として施設実習を行う。加えて、社会で働く厳しさ、責任、そして仕事のやりがいを実際に体験する
授業の概要	学生数名がグループとなり、2種の資格取得希望の学生と共に高齢者施設において10日間、施設利用者と関わり、毎日実習日誌を書く。可能な範囲での介護の手伝い、また音楽レクリエーションにおいてはプログラム作成、実施、記録を行う
授業計画	<p>前期</p> <p>これまでに学んできた実技の技術、理論に加えて、ステージで演奏するために更に深く音楽を追求し、それをもって学内演奏に臨む</p> <p>後期</p> <p>学内演奏の経験を踏まえ、演奏法と楽曲の研究の両方から更なる研鑽を積む。卒業試験のために選んだ楽曲について、その作曲家の全体像にも触れ、作品の背景、様式上の特性を考慮しつつ、より完成度の高い演奏を目指す</p> <p>〔成績評価〕</p> <p>1、卒業試験(実技試験・公開演奏)</p> <p>2、口頭試験:卒業試験(器楽実技研究Ⅷ)で演奏した曲の内容について口頭試験を行う 口頭試験は、事前に作曲家・作曲家の作品の歴史、様式、楽曲分析、演奏技法などをレポート用紙5枚程度に調べた上で、口頭試験に臨む</p> <p>3、学内、学外での演奏会、講座等の鑑賞や出演で評価する</p> <p>※提出期限 該当年度の1月31日(祝日の場合は翌週の月曜日) 17:30 提出窓口 学務課</p>

--	--

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	30%	演奏内容
	卒業試験曲の演奏レポート	30%	内容の深さ・主体的取り組み
	口頭試問	30%	研究動機・研究内容に対する詳細な質問
	特別講座への取り組み	10%	主体性・積極性・追求性

科目名	音楽療法実習A(児童領域)	科目ナンバリング	MT4T0T12		
担当者	村橋 和子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	4年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※			必修	ACDE
備考	※音楽療法士1種資格取得希望者必修				

授業のテーマ及び到達目標	1、2年生で学んだ音楽療法に関する学び(対象者の疾病や障がいの理解、彼らを支える社会について、また対人援助の技法、音楽療法的技術など)の集大成として施設実習を行う。加えて、社会で働く厳しさ、責任、そして仕事のやりがいを実際に体験する
授業の概要	学生数名がグループとなり、2種の資格取得希望の学生と共に高齢者施設において10日間、施設利用者と関わり、毎日実習日誌を書く。可能な範囲での介護の手伝い、また音楽レクリエーションにおいてはプログラム作成、実施、記録を行う
授業計画	<p><事前学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法実習指導で学んだ事を振り返り、確認しておく。 ・セッションプログラムを作成し、歌詞譜、楽器、楽譜等の準備を確認する。 ・セッションやレクリエーション活動の際、即時に対応できるよう弾き歌い、または歌唱の練習をしておく。 ・実習先へのオリエンテーションの際、実習生プロフィール、個人情報についての誓約書などを準備する。 <p><事後学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌及びセッションの記録をまとめ、実習指導者に提出する。 ・実習先へお礼状を出す。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内では、授業として開講されない。 ・各施設にて10日間の実習を行う。(介護の手伝い、音楽活動など) ・実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の状況を把握する

--	--

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実習態度	50%	実習の状況、日誌内容の充実など
	実践力	50%	プログラムの準備・充実、対象者への関り

科目名	音楽療法実習A(精神科領域)	科目ナンバリング	MT4T0T12		
担当者	村橋 和子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	4年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※			必修	ACDE
備考	※音楽療法士1種資格取得希望者必修				

授業のテーマ及び到達目標	1、2年生で学んだ音楽療法に関する学び(対象者の疾病や障がいの理解、彼らを支える社会について、また対人援助の技法、音楽療法的技術など)の集大成として施設実習を行う。加えて、社会で働く厳しさ、責任、そして仕事のやりがいを実際に体験する
授業の概要	学生数名がグループとなり、精神科病院や関連施設において10日間、対象者と関わり、毎日実習日誌を書く。可能な範囲での介護の手伝い、また音楽療法においては プログラム作成、実施、記録を行う
授業計画	<p><事前学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法実習指導で学んだ事を振り返り、確認しておく。 ・セッションプログラムを作成し、歌詞譜、楽器、楽譜等の準備を確認する。 ・セッションやレクリエーション活動の際、即時に対応できるよう弾き歌い、または歌唱の練習をしておく。 ・実習先へのオリエンテーションの際、実習生プロフィール、個人情報についての誓約書などを準備する。 <p><事後学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌及びセッションの記録をまとめ、実習指導者に提出する。 ・実習先へお礼状を出す。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内では、授業として開講されない。 ・各施設にて10日間の実習を行う。(介護の手伝い、音楽活動など) ・実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の状況を把握する

--	--

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実習態度	50%	実習の状況、日誌内容の充実など
実践力	50%	プログラムの準備・充実、対象者への関り	

科目名	音楽療法基礎理論 I	科目ナンバリング	MC4T0T04
担当者	村橋 和子		
担当形態	単独	単位数	2単位
対象学科	両学科共通	開設学年	1年次
開講時期	前期		
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士
	選択		音楽療法
			ディプロマポリシー
			ABC
備考	※音楽療法コース必修		

授業のテーマ及び到達目標	音楽療法の外観を理解し、さまざまな領域での音楽療法について基礎的な知識を確実に身に着ける。音楽療法の歴史、定義、各領域について他者に自分の言葉で説明できることを目標とする			
授業の概要	音楽療法についての基礎的な知識を習得し、実際に様々な領域で音楽がどのように使われ、対象者にどのような影響を与えているのかを学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 授業の進め方、資格取得について理解する	シラバスを熟読する	心得をまとめる
	2	音楽療法概観 レジュメにより定義、領域、手順、手段、研究方法などを学ぶ	教科書第1章を熟読。レジュメの用語を調べる	定義の暗記。領域、手順、研究方法についてまとめる
	3	音楽療法概観 DVD視聴。音楽の特性、治療構造などについて学ぶ	レジュメの熟読用語を調べる	音楽の特性について学んだ事をまとめる
	4	音楽療法の歴史と現状① 古代から近代の音楽療法が制度化されるまでの歴史を学ぶ	教科書の古代～近代の音楽療法誕生までの歴史を熟読	音楽療法の起源、歴史についてまとめる
	5	音楽療法の歴史と現状② 日本における音楽療法の発展を学ぶ	教科書の日本における音楽療法の歴史を熟読	パイオニアたちの業績をまとめる
	6	高齢者の医療と福祉 レジュメにより保険制度、施設の種類、この領域の問題点などを学ぶ	レジュメの熟読用語を調べる	高齢者医療と福祉についてまとめ、課題を考える
	7	高齢者領域の音楽療法について DVD視聴。この領域の手法について学び、課題についても考える	教科書の高齢者施設での音楽療法を熟読	この領域の手法をまとめ、音楽の持つ役割を考える
	8	緩和ケアにおける音楽療法について DVD視聴。この領域の手法について学び、課題についても考える	教科書のホスピスでの音楽療法を熟読	死にゆく人と音楽療法についてレポート作成

	9	児童の心身の健康と発達について 児童の発達を学び、健康について考える	プリントを熟読	児童の発達についてまとめる
	10	児童領域の音楽療法について DVD視聴。この領域の手法について学び、課題についても考える	教科書の障がい児の音楽療法を熟読	児童領域の手法をまとめ、音楽の役割について考える
	11	精神科医療、精神障害の歴史と現状 レジュメに沿って学び精神障がい者の抱える課題について理解する	レジュメを熟読し、用語について調べる	精神障がい者の抱える問題を理解し、まとめる
	12	精神科医療の音楽療法について レジュメに沿って学びこの領域の手法、音楽の役割について理解する	教科書の精神病院での音楽療法を熟読	精神科での手法を理解し、音楽の役割を考える
	13	コミュニティ音楽療法について① コミュニティー音楽療法の歴史、ノーマライゼーションについて理解する	プリントを熟読し、用語を調べる	ノーマライゼーションについてまとめる
	14	コミュニティ音楽療法について② 現在のこの領域の現状を理解し、展望について考える	プリントを熟読し、用語を調べる	この領域についてまとめ、今後の課題について考える
	15	まとめ これまで学んだことについて、自分の言葉でまとめ、学びを振り返る 夏休みの課題提示	教科書、プリントを復習する	すべての項目について振り返る

使用教科書	音楽療法の手引き 音楽療法家のための(牧野出版),
	音楽療法の実際 音の使い方をめぐって(牧野出版)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		平常点(態度・行動観察)	10%
	毎時間の振り返り	10%	毎回のレポートへの取り組み、内容の充実
	期末テスト	80%	筆記試験の点数

科目名	音楽療法基礎理論Ⅱ	科目ナンバリング	MC4T0T05		
担当者	村橋 和子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択			選択必修	ABC
備考	※音楽療法コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	音楽療法の対象者の疾病、障害について理解し、さらに彼らを取りまく社会に関して理解を深める。さらにそれらについて自分の言葉で、他者に説明できることを目指す			
授業の概要	音楽療法基礎理論Ⅰに引き続き、音楽療法の基礎知識を深め、さらに音楽療法の対象者の疾病、障害について学び、また彼らを取り巻く社会環境について研究する。学生が作成するレジュメを基に授業を行う。レジュメ担当は指示された項目について事前にしっかり学習しておく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 夏休みの課題発表。レジュメ作成について学ぶ	シラバスの熟読、 夏休みの課題レ ポート作成	課題をまとめる
	2	脳機能障害について 脳の仕組みについて理解し、様々な脳機能障がいについて知る	レジュメを熟読し、 用語を調べる	脳の仕組み、その 障がいについてま とめる
	3	認知症について 疾患の種類、症状、原因、治療法などについて理解する	レジュメを熟読し、 用語を調べる	疾患の種類、症 状、原因、治療 法についてまとめる
	4	リハビリテーションについて 定義、治療の種類、コメディカルなどについて理解する	レジュメを熟読し、 用語を調べる	定義、コメディカ ルについてまとめ る
	5	発達障がいについて① 障がいの種類、症状、その特異性について理解する	レジュメを熟読し、 用語を調べる	疾患の種類、症 状、原因、治療 法についてまとめる
	6	発達障がいについて② 障がいの特異性について振り返り、音楽療法との関連を学ぶ。D VD視聴(FMT)	レジュメを熟読し、 用語を調べる	対象者の抱える 困難を理解し、援 助についてまとめ る
	7	児童の神経症、その周辺の課題について 疾患の種類、症状、原因、治療法などについて理解する	レジュメを熟読し、 用語を調べる	疾患の種類、症 状、原因、治療 法についてまとめる
	8	統合失調症について 疾患の種類、症状、原因、治療法などについて理解する	レジュメを熟読し、 用語を調べる	疾患の種類、症 状、原因、治療 法についてまとめる

	9	気分障害について 疾患の種類、症状、原因、治療法などについて理解する	レジュメを熟読し、 用語を調べる	疾患の種類、症 状、原因、治療 法についてまとめる
	10	不安障害について 疾患の種類、症状、原因、治療法などについて理解する	レジュメを熟読し、 用語を調べる	疾患の種類、症 状、原因、治療 法についてまとめる
	11	人格障害について 疾患の種類、症状、原因、治療法などについて理解する	レジュメを熟読し、 用語を調べる	疾患の種類、症 状、原因、治療 法についてまとめる
	12	終末期医療、死生観について 緩和ケアでの音楽療法の実際を学び、『死』について考える	レジュメを熟読し、 用語を調べる	疾患の種類、症 状、原因、治療 法についてまとめる
	13	芸術療法との関連について レジュメに沿って芸術療法について学び、その観点から音楽療法 を考える	レジュメを熟読し、 用語を調べる	音楽療法に関連 する他の治療法 についてまとめる
	14	事例研究 事例を読み、音楽療法の研究について理解する	レジュメを熟読し、 用語を調べる	研究方法を理解 し、音楽療法の治 療的意義を考える
	15	まとめ これまで学んだことについて、自分の言葉でまとめ、学びを振り返 る 春休みの課題提示	教科書、プリントを 復習する	試験内容を振り返 る

使用教科書	音楽療法の手引き 音楽療法家のための(牧野出版),
	音楽療法の実際 音の使い方をめぐって(牧野出版)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	10%	授業への集中、質問への返答の様子を観察
毎時間の振り返り	10%	毎回のレポートへの取り組み、内容の充実	
期末テスト	80%	筆記試験の点数	

科目名	音楽療法演習(各論)	科目ナンバリング	MC4T0T06		
担当者	村橋 和子・青 拓美				
担当形態	オムニバス	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※			選択必修	BCDF
備考	※音楽療法士2種資格取得希望者は必修／青拓美講師の講義については、オリエンテーション時に詳細を説明				

授業のテーマ及び到達目標	音楽療法の治療技術として代表的な理論、音楽療法に関連する領域の教育、治療理論を多方面から学ぶことにより、それらの理論を用いた音楽療法の手法を習得することを目的とする。様々な手法を体験することにより、感性を高め、対象者に適した対応ができるようになる			
授業の概要	臨床音楽療法に関する各論を扱う。音楽療法の治療技術として代表的な理論、音楽療法に関連する領域の教育、治療理論を多方面から学ぶ。さらにそれらの理論を用いた音楽療法の手法についても学ぶ。毎週課題曲の弾き歌いを行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 音楽療法基礎理論で学んだことを振り返りながら2年次での学習について理解する	シラバスを熟読する	音楽療法士としての責任についてレポート作成
	2	発達と音楽療法 児童領域での音楽療法について発達面から考える	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	発達についてまとめる
	3	発達諸理論と音楽療法 様々な発達理論を学び、音楽療法との関連を理解する	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	発達の諸理論についてまとめる
	4	発達のアセスメント・評価 代表的な発達検査について学び、評価方法を理解する	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	よく使われる用語についてまとめる
	5	感覚統合理論 感覚統合理論について学び音楽療法との関連を理解する	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	感覚統合理論についてまとめる
	6	リズム リズムの理論について学び、体験し、音楽療法との関連を理解する	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	理論についてまとめ、体験をレポートする
	7	プレイセラピー プレイセラピーについて学び音楽療法との関連を理解する	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	プレイセラピーについてまとめる
	8	即興的音楽療法(ノードフ・ロビンズ) 即興的音楽療法について学び、音楽療法での即興を体験する	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	理論についてまとめる

	9	オルフ=ミュージックセラピー 理論について学び、楽器を使って体験する	プリントを熟読し、 用語を調べる 課題曲の練習	理論についてまと める
	10	BED—MUSIC技法 理論について学び、体験し、この技法を習得する	プリントを熟読し、 用語を調べる 課題曲の練習	理論についてまと める
	11	ロジャーズ「来談者中心療法」 プリントに沿ってこの治療法を理解し、音楽療法との関連を考える	プリントを熟読し、 用語を調べる 課題曲の練習	理論についてまと める
	12	パーソン・センタード・ケア 理論を理解し、音楽療法との関連について考える	プリントを熟読し、 用語を調べる 課題曲の練習	理論についてまと める
	13	調整的音楽療法・GIM 理論を理解し、体験する	プリントを熟読し、 用語を調べる 課題曲の練習	理論についてまと め、体験をレポートする
	14	音楽療法における声の使い方（時期未定） * 青拓美講師による特別講座	課題曲の練習	青式発声法の理 論についてまと め、体験をレポートする
	15	まとめ (課題曲の弾き歌い試験、筆記試験と振り返り)	これまでの資料を 熟読し、用語を調 べる 課題曲の練習	すべての項目に ついて振り返る

使用教科書	音楽療法の実際 音の使い方をめぐって(牧野出版)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	10%	課題への取り組み、受講態度
	課題、レポート	10%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	80%	弾き歌い、及び筆記試験の点数

科目名	音楽療法演習(技法)	科目ナンバリング	MC4T0T07		
担当者	村橋 和子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※			選択必修	BCDF
備考	※音楽療法士2種資格取得希望者は必修				

授業のテーマ及び到達目標	音楽療法対象者の健康及び疾病、障害に伴う症状に対して有効に働きかけるための技法を身につけることを目標とする。コード奏による弾き歌いができること、また目的に応じた選曲や活動をプログラムし、対象者に適切な対応ができることを目指す			
授業の概要	臨床音楽療法に関する技法を扱う。音楽療法の対象者の健康及び疾病、障害に伴う症状に対して有効に働きかけるための技法について模擬セッションを通して学ぶ。また音楽療法法基礎理論で学んだこと(障害の理解など)を更に深め、治療目的に沿った活動の手段や査定と評価の方法についても研究する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 夏休みの課題発表	シラバスを熟読する	夏休みの課題をまとめる
	2	既存楽曲の弾き歌い(基本コードについて コード奏について学ぶ	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	注意点がクリアできるよう練習する
	3	既存楽曲の弾き歌い(その他のコード) コード奏で弾き歌いをし、課題を発表する	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	注意点がクリアできるよう練習する
	4	既存楽曲の弾き歌い(伴奏形のアレンジ) コード奏で弾き歌いをし、課題を発表する	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	注意点がクリアできるよう練習する
	5	既存楽曲の弾き歌い(移調) コード奏で弾き歌いをし、課題を発表する	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	注意点がクリアできるよう練習する
	6	各領域の対象者に適した楽器の種類と奏法 様々な楽器の種類とその奏法について学び、今後の授業では毎回弾き歌いを行う	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	楽器について復習する
	7	各領域の対象者に適した楽器の種類と奏法 即興を体験する	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	即興体験についてレポートする
	8	児童領域における音楽療法の実際(プログラム)目的に沿ったプログラムを考える	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	プログラムを発表できるよう各自準備する

	9	児童領域における音楽療法の実際(ロールプレイ)発表者はリーダー、他の学生は対象者役となり模擬セッションを行う	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	各発表について振り返り、改善点を考える
	10	高齢者の生きた時代と音楽史	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	プログラム作成について考える
	11	高齢者の生きた時代と音楽史(楽曲の奏法)	課題曲の練習	プログラムを発表できるように各自準備する
	12	高齢者領域における音楽療法の実際(プログラム)目的に沿ったプログラムを作成する	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	プログラムを発表できるように各自準備する
	13	高齢者領域における音楽療法の実際(ロールプレイ)発表者はリーダー、他の学生は対象者役となり模擬セッションを行う	プリントを熟読し、用語を調べる 課題曲の練習	各発表について振り返り、改善点を考える
	14	音楽療法の現場見学	セッションプログラムを熟読 課題曲の練習	見学の内容をまとめ振り返る
	15	まとめ (課題曲の弾き歌い試験、筆記試験と振り返り)	プログラム確認 課題曲の練習	すべての項目について振り返る

使用教科書	障がい児の音楽療法 声・身体・コミュニケーション(春秋社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	20%	課題への取り組み、受講態度
課題、レポート	20%	課題への取り組み、内容の充実	
期末テスト	60%	弾き歌い、及び筆記試験の点数	

科目名	音楽療法実習B	科目ナンバリング	MC4T0T13		
担当者	村橋 和子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	3年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※			必修	ABCDEF
備考	※音楽療法士2種資格取得希望者必修				

授業のテーマ及び到達目標	1、2年生で学んだ音楽療法に関する学び(対象者の疾病や障がいの理解、彼らを支える社会について、また対人援助の技法、音楽療法的技術など)の集大成として施設実習を行う。加えて、社会で働く厳しさ、責任、そして仕事のやりがいを実際に体験する
授業の概要	学生数名がグループとなり(時に1名もあり)、2種においては高齢者施設において10日間、施設利用者に関わり、毎日実習日誌を書く。可能な範囲での介護の手伝い、また音楽レクリエーションにおいてはプログラム作成、実施、記録を行う
授業計画	<p><事前学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法実習指導で学んだ事を振り返り、確認しておく。 ・セッションプログラムを作成し、歌詞譜、楽器、楽譜等の準備を確認する。 ・セッションやレクリエーション活動の際、即時に対応できるよう弾き歌い、または歌唱の練習をしておく。 ・実習先へのオリエンテーションの際、実習生プロフィール、個人情報についての誓約書などを準備する。 <p><事後学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌及びセッションの記録をまとめ、実習指導者に提出する。 ・実習先へお礼状を出す。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内では、授業として開講されない。 ・各施設にて10日間の実習を行う。(介護の手伝い、音楽活動など) ・実習期間中に実習巡回担当教員が実習先を訪問し、実習の状況を把握する

--	--

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実習態度	50%	実習の状況、日誌内容の充実など
実践力	50%	プログラムの準備・充実、対象者への関り	